

令和7年度 一般社団法人 埼玉県校外教育協会 委嘱

校外教育 研究紀要



杉戸町立西小学校

〒345-0046

杉戸町高野台南5丁目1番地1

TEL 0480-32-2016

FAX 0480-32-2030

URL <https://www.town.sugito.lg.jp/site/nishi-e/>



1 研究の概要

(1) 研究テーマ

未来の創り手となるために必要な資質・能力の育成
～総合的な学習の時間と生活科の授業づくりを通して～

(2) 選定理由

学校では、全ての子供を自立した学習者へと育て上げ、自らの学習を調整して学び続けられるようにすることが求められている。また、「みんなと同じことができ、言われたことを言われたとおりにできる」だけでなく、一人一人の児童が自分のよさや可能性に気づき、多様な人々と協働しながら様々な課題を解決していかなければならない。そこで、児童に「学んだことを実際の社会や生活に生かしたり、未知の状況にも対応したりできる力」を育成していくため、本研究主題を設定した。

(3) 研究のねらい

地域人材、外部講師による専門性の高い学習や多様な体験の機会を全学年に設定することで、児童一人一人に幅広い学びを経験させる。

(4) 研究計画

- 4月 1年生校外学習（春の公園） 3年生町探検（総合的な学習の時間・町の様子の観察）
- 5月 2年生町探検（生活科・町の様子の観察）
4年生社会科見学（首都圏外郭放水路・環境センター）
5年生華道教室 5年生着付け教室 5年生囃子教室 5年生和菓子教室
- 6月 6年生社会科見学（国会議事堂等） 6年生学びっちゃすぎと塾（杉戸の歴史）
- 7月 1年生校外学習（夏の公園） 5年生留学生交流学习（オーストラリアより）
5年生林間学校（日光方面） 4年生ゴミ拾いプロジェクト
- 9月 3年生町探検（総合的な学習の時間・町の様子の観察）
3年生校外学習（スーパーマーケットにインタビュー） 6年生仕事インタビュー
- 10月 2年生校外学習（生活科・町で働く方々の工夫） 4年生環境講座
- 11月 1年生校外学習（秋の公園） 6年生職業意識形成授業
6年生修学旅行（鎌倉・日光・小田原方面）
3年生社会科見学（杉戸消防署・杉戸警察署）
- 12月 4～6年生情報モラル教室 1・2年生校外学習（東武動物公園）
5・6年生夢いっぱいコンサート
- 1月 6年生租税教室 5年生社会科見学（機体整備場）
6年生出前授業（しごとのところ）
- 2月 1年生竹とんぼ教室
- 3月 1年生校外学習（冬の公園）

2 実際の実践

「総合的な学習の時間」と「生活科」の授業を核としてカリキュラムマネジメントを行い、様々な体験活動を実施した。

(1) 1年生「あそびにいこうよ」

季節ごとに近隣の公園に遊びに出かけた。季節に対する感性も少しずつ豊かになり、秋になるとどんぐりやまつぼっくりを子どもたち自身が拾ってくることもあった。また、冬には「むかしあそび」として地域の方をお招きし、「むかしあそび教室」を実施した。最初は苦戦している様子だったが、徐々に上達し、昔ながらの遊びの楽しさを感じることができているようだった。「コツをわかりやすく教えてもらえたので、できるようになった」「ほかの『むかしあそび』ももっと知りたい」等の感想が挙がっていた。



(2) 2年生「まちの人の話を聞こう」

近隣の駅や郵便局、銀行やケーキ屋等に、インタビューに出かけた。インタビュー内容は子どもたちが日々の生活の中で疑問に感じたことをもとに考え、それぞれの質問に丁寧に答えていただいた。内部まで見学させていただいたり、仕事を実際に経験させていただいたりした施設もあり、子どもたちも目を輝かせていた。インタビューを終えて「町の人たちは本当にいろいろな工夫をして仕事をしていることがわかった」「今度からはたらく人にありがとうを伝えたい」等の感想があがっていた。



(3) 3年生「大発見！ぼくらは杉戸のすてき調査隊」

一年間を通して、杉戸町の魅力を調査した。数回に渡って杉戸町商工会の方にゲストティーチャーとして来ていただき、携わっている催し物の概要や、そこに込められている思いや願いについてお話しいただいた。社会科の学習でも杉戸町の学習を行うため、社会科見学では杉戸町の様々な施設（すぎとピア・アグリパークゆめすぎと・杉戸警察署・杉戸消防署）を実際に見学した。地域の特色について、深く関わっている方々から専門的な内容を教えていただくことができた。



(4) 4年生「わたしたちで杉戸の未来を守ろう」

一年間を通して身近な環境問題について考え、自分たちの町を住みよくしていこうとする学習を行った。その過程で、地区内のごみ拾いやごみ調査に出かけたり、環境保全のために各自ができることを考えて複数回に渡って実験・実践をしたりした。校外に出る際には保護者や地域の方々に見守っていただいたり、リサイクルセンター等の関係機関に児童が連絡をとって質問をしたりした。学んだことは各自が表現しやすい形にまとめ、掲示物を作成したり全校に呼びかけたりした。



(5) 5年生「地球をめぐる文化の旅へ」

単元の前半は日本文化の探究、後半は世界文化の探究を行った。特に、前半の日本文化探究では地域にお住まいの方々をゲストティーチャーとして何度も招聘し、様々な体験学習を行った。具体的には着付け体験や生け花体験、書道体験やお囃子体験を行った。知識としては知っていながらも、実際に行うのは初めての児童が多く、「実際にやってみると難しく、奥が深いことがわかった」「海外の方にも日本の文化を伝えられるようにしたい」等の感想が挙がっていた。



(6) 6年生「未来の扉をひらこう」

単元の前半は自分の強みを伸ばす学習、後半は将来に向けてのライフプランを立案していく学習を行った。前半の学習では近隣の保育園や幼稚園に行き交流したり、ペットショップにインタビューに行ったり、全校除草の企画・運営を行ったりした。後半の学習では、保護者や地域の方々にゲストティーチャーとして来ていただき、「お仕事インタビュー」を行った。様々な職業の仕事内容や大変なところ、やりがい等をブース形式でインタビューを交えながら教えていただいた。「意外な部分に苦労を感じていることがわかった」「自分も人の役に立てるような仕事に就きたい」等の感想が挙がっていた。



3 成果と課題

(1) 研究の成果

多岐にわたる体験の機会を設定したことで、児童の興味関心の幅が大きく広がった。また、外部講師による専門性の高い学習は、その分野が元から好き・得意だった児童にとって非常に有意義な機会となり、個性の伸長につながった。地域の方々との関わりにより、地域には様々な伝統を受け継ぐ方々がいることや、自分たちが多くの人々に支えられていることに気づく児童が多くいたことも大きな成果である。

(2) 今後の課題

「子どもたちにつけさせたい力」について共通理解を図り、どのような体験学習が効果的か精査していくことが今後の課題である。また、体験活動のために教科横断的なカリキュラムマネジメントを進めてはいる一方で、各教科において伸ばすべき力が全員に定着しきっていないのも現状である。各教科で押さえるべき内容を確実に定着させることで学びの基盤を作り、その上で幅広い学びができるような体験の時間を確保していきたい。